

ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2020について

シーニックバイウェイ北海道 推進協議会

令和3年12月14日



ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2020



Scenic Byway HOKKAIDO

平成20年度よりシーニックバイウエイ北海道の推進に向けて、他の模範となるルート活動であり、将来への発展性が高く評価できる取り組みを選出し表彰する「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト」の取り組みを実施。

2019

～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取り組み～
函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」
(函館・大沼・噴火湾ルート)



2018

どうなん道の駅連携事業
(どうなん・追分シーニックバイウエイルート)



2017

～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～
ビューポイントパーキングの景観改善（電線移設）
(支笏洞爺二セコルート)



2016

いにしえ街道の景観を活かした街づくり
(どうなん・追分シーニックバイウエイルート)



2015

そらの森の植樹活動～地域で育てる森プロジェクト～
(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ)



2014

「ライフコンシェルジュ（ご当地風土アドバイザー）
育成事業」（トカプチ雄大空間）



<表彰>

- 活動団体賞 1 件（指定・候補ルートを対象） 【エントリー数 17件】
- 部門賞 3 件（指定ルートを対象）

<エントリー部門>

- 美しい景観づくり賞 【エントリー数 3件】
- 活力ある地域づくり賞 【エントリー数 5件】
- 魅力ある観光空間づくり賞 【エントリー数 5件】

※部門賞は、部門毎に 1 件とし最大 3 件とするが、評価の結果によってはこの限りではない。

- 最優秀賞「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2020」1 件（指定ルートを対象）
部門賞の中から 1 件選出（評価の結果によってはこの限りではない。）

<評価の視点>

地域の資源を発見・活用し、有形・無形の「新しい価値」を生み出しているか否かに評価の軸を置くと共に、以下の点に留意し、プロジェクトの評価を行う。

－部門賞及び大賞－

- 持続性（取組の継続性の程度を評価）
- 浸透性（地域内への広がり程度を評価）
- 拡張性（モデルケースとしての地域外へ展開の程度を評価）
- 連携性（地域同士や他団体との連携の程度を評価）
- 先進性（新しいものに取り組んでいく姿勢の程度を評価）
- 効果性（定量的・定性的な効果の程度を評価）
- 人材育成

▼各賞決定までの流れ

募集開始



各ルートから活動の応募



■ 活動団体賞

各ルートによる投票

- ※対象：指定及び候補ルート
- ※自ルート以外に、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを活動団体賞として選出



■ 部門賞、最優秀賞

ルート審査委員会にて審査

- ※対象：指定ルート
- ※ルート審査委員が、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを部門賞候補として選出
- ※選出された部門賞候補から最優秀賞を選出



推進協議会にて活動団体賞、部門賞及び最優秀賞を決定

活動団体賞候補〔エントリー17件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

部門	NO	ルート名称	活動名称	点数	主なコメント
美しい景観づくり	①	支笏洞爺ニセコルート	～景観障害物を撤去して再利用！～ 景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト	27	◎ 景観を阻害している雑木を撤去するのみではなく、それをリユースし、観光利用や商用利用している点が良い。地域資源のリユース・リサイクルは、SDGsの活動としても評価できる。
	②	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置		
	③	札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート	札幌シーニックバイウェイにおける美しい景観の道づくりプロジェクト		
	④	空知シーニックバイウェイ-体感未来道-(候補ルート)	～かわたび北海道×空知シーニックバイウェイ～ 空知川メインルート 体験テストツアー	24	かわたびほっかいどうとの連携による地元の寄り道の発掘、景観を楽しみながら体験も出来る。町興しやビジネスにつながるすばらしい取組みだと感じた。
活力ある地域づくり	⑤	東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー		
	⑥	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	新型コロナウイルス感染症状況下における道の駅の3密回避を意識した道の駅「摩周温泉」訪問者のオープンスペースへの誘導		
	⑦	函館・大沼・噴火湾ルート	～カーボンオフセットの導入によるCO2削減～「シーニックの森」づくり		
	⑧	十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間	情報発信事業		
	⑨	どうなん・追分シーニックバイウェイ ルート	～伊能忠敬日本図測開始場所の史実発見と地域資源活用の取組～ 「殿様街道探訪ウォーク」における地域の歴史資源研究活動		
	⑩	層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ (候補ルート)	シーニックマルシェの開催		
魅力ある観光空間づくり	⑪	大雪・富良野ルート/宗谷シーニックバイウェイ/萌える天北オロロンルート/天塩川シーニックバイウェイ	道北シーニック連携フォトコンテスト開催及びフォトブックの作成		
	⑫	天塩川シーニックバイウェイ/宗谷シーニックバイウェイ	きた北海道エコ・モビリティの推進地域サポートライダーライドの実施	13	広域的に活動しており、また自転車に乗るだけでなく、サポートガイドの育成などを実施している点が評価できる。
	⑬	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	様々な機関と連携したサイクルツーリズムの試行と支援		
	⑭	萌える天北オロロンルート	オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト	13	新しい旅のスタイル、サイクルをネットワーク化し、他地域との連携強化は、これからの北海道スタイルとして期待できる。
	⑮	どうなん・追分シーニックバイウェイ ルート	～南北海道・海外・青森との連携とコースの造成～ どうなんサイクルツーリズム推進事業	16	連携という点では、道路を超えるつながりが新しい取り組みとを感じる
	⑯	層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ (候補ルート)	観光・地域情報発信		
	⑰	知床ねむる・北太平洋シーニックバイウェイ (候補ルート)	ジモトナタビキャンペーン	17	コロナ禍にいち早く地元（ジモト）に目をつけ、withコロナ時代のドライブ観光に取組んだ勇気などが評価できる。

※点数上位5位までの点数とコメントを表記

活動団体賞

活動名称

～景観障害物を撤去して再利用！～
景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

支笏洞爺ニセコルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

シーニックバイウェイによる沿道の景観清掃活動の中で、目に付いた道路の景観を阻害する胡桃の木等を撤去する活動を兼ね、リユース材の販売や遊歩道に杖や案内サイン等の設置。

●活動内容：①案内標識等の視認性を妨げる樹木の枝打ち等による道路景観の向上

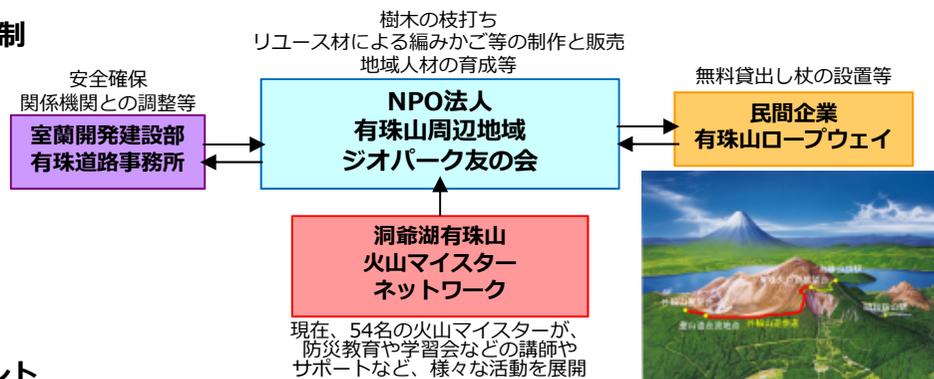
- ②枝打ちした胡桃の枝等を杖に加工：登山道での無料貸出し杖設置
- ③ブドウヅル等を活用した加工品の制作・販売(地域バザール等)
- ④会員を対象とした籠編み講習会等を通じた地域の人材育成

●活動期間：平成27年度～令和2年度 ※継続展開中

・実施場所：洞爺湖周辺の道路沿道（国道・道道等）

※道路脇などに自生し看板の眺望を妨げているクルミ・ヤマブドウ等の枝について、道路管理者や各種関係機関との事前・事後の調整をした上で実施

②活動の体制



③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・地域資源（人・もの等）のリユース・リサイクルおよび高付加価値化
- ・加工品の売上げは、エリア内の地域活動に還元するなど、活動の自立に繋がっている
- ・女性メンバー等、幅広く多くの方々に地域活動に参加してもらう気運が醸成されている
- ・道路沿道での活動を伴うため、道路管理者・地域・民間の密な連携体制の構築
- ・樹皮を活用できる枝打ち時期が短期間に限られているため、伐採期間に限りがある

【活動による効果】

- ・有珠山を訪れる国内外の観光客に対するサービス提供に対する高い評価【外向きの効果】
- ・地域資源の利活用による資源や活動資金の循環および地域人材の活性化【内向きの効果】

STEP1 眺望確保に向けた雑木伐採



STEP2 伐採木のリユース（籠みかごの販売や杖の提供）



参考

活動名称

～かわたび北海道×空知シーニックバイウェイ～
空知川メインルート 体験テストツアー

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

空知シーニックバイウェイ-体感未来道-

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

- 空知シーニックバイウェイでは「地域の歴史・営みを感じる空知ingな景観づくり」に取り組んでいます。本活動は「かわたび北海道」と「空知シーニックバイウェイ」が連携し、メインルートのひとつである“空知川”沿いのビューポイントを実際に体験。その背景にある地域の歴史や成り立ちを学び、子どもたちに伝えていくため、空知の景観保全とさらなる地域資源の活用を検討するものです。

●活動内容：

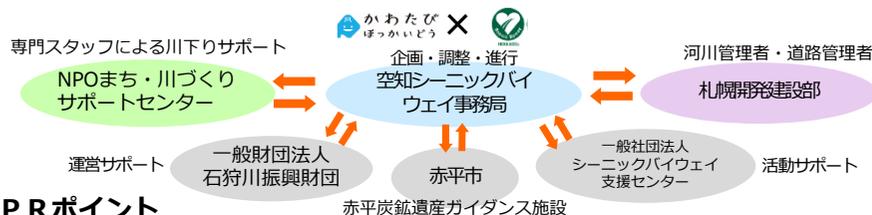
- ①空知川沿いのビューポイントの体験：**Eボートで専門スタッフと川を下り、自然環境や松浦武四郎が発見したとされる露頭炭（北海道地質百選）を五感で体験。
- ②景色の背景を学ぶ：**赤平炭鉱遺産ガイダンス施設にて、元炭鉱マンガイドより景色の背景（炭鉱遺産）について学ぶ。
- ③寄り道ビューポイントの発掘：**ドライブで寄り道可能なビューポイントとして旧三井芦別鉄道炭山川橋梁（日本遺産「炭鉄港」）、芦別川の名勝「三段滝」のヒーリングスポットを体験。

●活動期間：令和元年～令和2年度

●実施場所：赤平市・芦別市・空知川・芦別川・国道452号・道道芦別砂川線

②活動の体制

- 企画：空知シーニックバイウェイ事務局
- 共催：NPOまち・川づくりサポートセンター、札幌開発建設部
- 後援：赤平市、一般財団法人石狩川振興財団、(一社)シーニックバイウェイ支援センター



③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- 川下りにより五感で景観を堪能できるプログラムとした。
- 地域の歴史・営み（炭鉱）を体験者から直接学べるよう工夫した。
- 関係者との調整、コロナも含めた安全対策の徹底。

【活動による効果】

- 景観・地域資源（ビューポイント箇所）の理解が深まった。
- 関係者間のネットワークが構築された。



Step1 ビューポイントを五感で体験



Step2 体験者に学ぶ



▲川下りでは、レスキュー訓練を受けたスタッフが担当 (NPOまち・川づくりサポートセンター)

Step3 地元の寄り道を発掘！！



▲旧三井芦別鉄道炭山川橋梁（日本遺産「炭鉄港」） ▲芦別川の名勝「三段滝」・国道452号の現地で課題等地元メンバーによる解説

部門賞① 美しい景観づくり部門候補〔エントリー 3件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	～景観阻害物を撤去して再利用！～ 景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト 【支笏洞爺二セコルート】	34	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブル社会へのメッセージ性と持続的活動を評価したい。 ・景観向上とリユースというのはユニークな取組みで、評価できる。 ・枝打ちによる景観向上だけでなく、その有効活用が工夫されていて共感できる。活動の広がりや持続の象徴ともなっていて、多ルートへの横展開をぜひ検討いただきたい。美しい景観づくりのための枝打ちをした胡桃の枝加工などのリユース・リサイクルの活動、加工品売上の活動資金への還元、女性人材の育成、人材活用など、シーニックの目指すものを実現している点を高く評価。また、一過性の活動では森はできないことから継続性についても評価できると考える。
2	シーニックデッキの設置 【東オホーツクシーニックバイウェイ】	8	<ul style="list-style-type: none"> ・着実に展開している。 ・シーニックデッキの幅広の展開を長期にわたって継続されていることに敬意。運営や設置のあり方などについて新しい方法や体制の検討が必要な時期に差し掛かっているのでは。 ・マルシェを継続していくことは大変です。高齢化している中で、創意工夫している点、また新規出店者を獲得している点を評価。シーニックマルシェが美しい景観の一部になっていると思う。
3	札幌シーニックバイウェイにおける美しい景観の道づくりプロジェクト 【札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート】	8	<ul style="list-style-type: none"> ・「秀逸な道」をきっかけにした、ルート価値の再発見への着実な活動への視点を評価。 ・秀逸な道の地域やルートへの意味と意義を学習し、それを実践につなげるというありがたい取り組み。これから大きく期待。 ・秀逸な道を取り上げて、美しいみちづくりを目指していることを評価。今後は更に具体的な取組につなげていくことを期待。

美しい景観づくり賞

活動名称

～景観障害物を撤去して再利用！～
景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

支笏洞爺ニセコルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

シーニックバイウェイによる沿道の景観清掃活動の中で、目に付いた道路の景観を阻害する胡桃の木等を撤去する活動を兼ね、リユース材の販売や遊歩道に杖や案内サイン等の設置。

●活動内容：①案内標識等の視認性を妨げる樹木の枝打ち等による道路景観の向上

②枝打ちした胡桃の枝等を杖に加工：登山道での無料貸出し杖設置

③ブドウヅル等を活用した加工品の制作・販売(地域バザール等)

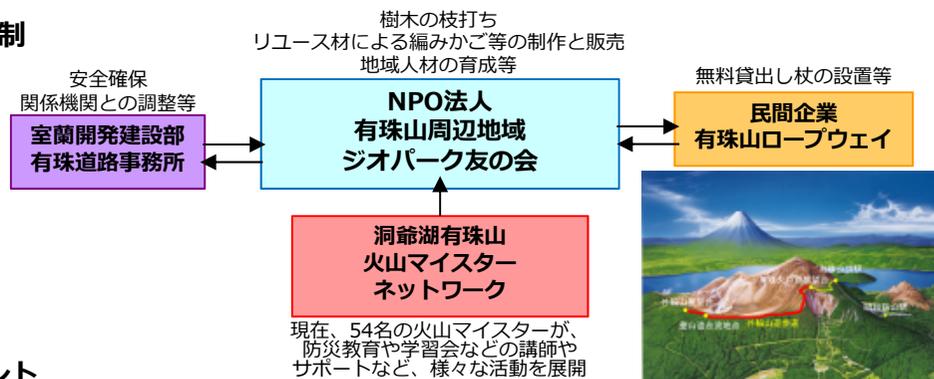
④会員を対象とした籠編み講習会等を通じた地域の人材育成

●活動期間：平成27年度～令和2年度 ※継続展開中

・実施場所：洞爺湖周辺の道路沿道（国道・道道等）

※道路脇などに自生し看板の眺望を妨げているクルミ・ヤマブドウ等の枝について、道路管理者や各種関係機関との事前・事後の調整をした上で実施

②活動の体制



③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・地域資源（人・もの等）のリユース・リサイクルおよび高付加価値化
- ・加工品の売上げは、エリア内の地域活動に還元するなど、活動の自立に繋がっている
- ・女性メンバー等、幅広く多くの方々に地域活動に参加してもらう気運が醸成されている
- ・道路沿道での活動を伴うため、道路管理者・地域・民間の密な連携体制の構築
- ・樹皮を活用できる枝打ち時期が短期間に限られているため、伐採期間に限りがある

【活動による効果】

- ・有珠山を訪れる国内外の観光客に対するサービス提供に対する高い評価【外向きの効果】
- ・地域資源の利活用による資源や活動資金の循環および地域人材の活性化【内向きの効果】

STEP1 眺望確保に向けた雑木伐採



STEP2 伐採木のリユース（籠みかごの販売や杖の提供）



部門賞② 活力ある地域づくり部門候補〔エントリー 5件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	ルート内道の駅スタンプラリー 【東オホーツクシーニックバイウェイ】	3	・蓄積された折角の貴重なアンケートの分析結果なども共有して欲しい。
2	新型コロナウイルス感染症状況下における道の駅の3密回避を意識した道の駅「摩周温泉」訪問者のオープンスペースへの誘導 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】	14	・連携による、地域の社会資本の融合価値創出へのチャレンジ。 ・コロナ禍の状況をよく考慮した取組みにより、大きな効果を発現している。 ・道の駅とSBWの連携のモデルとなりうるプロジェクトをこれまでに継続的に多数実施されていることに敬意を表したい。大事なことを粘り強く展開されていることに感謝したい。 ・ウイズ・コロナ時代を意識し、新しいツーリズムにつながる、議論やプログラムの検討がなされた事を評価。
3	～カーボンオフセットの導入によるCO2削減～ 「シーニックの森」づくり 【函館・大沼・噴火湾ルート】	11	・地域で生き続けるための、国土の自然回復への地道かつ着実な活動を評価。 ・ルートメンバーの持つ技とネットワークを大活用した取り組みで、着実に力強く前進している。カーボンオフセット事業全体に言えることであるが、森を育成するだけでは樹木はいずれ枯れてCO2を放出するので、数百年の時間稼ぎをしているだけでもいえる。育成した森をどう使うか、石油代替にどう貢献するかまでシーニックの力が試されている。 ・シーニックのルートのなかで、SDGsのモデルになる取組として評価します。 ・一朝一夕でできることではないので、メンバーの情熱、持続化などの結晶だと考える。今後も地道な活動の継続を願っている。
4	情報発信事業 【十勝シーニックバイウェイトカプチ雄大空間】	6	・トカプチらしい取り組み。成果はこれからの期待。 ・数あるルートの中で、情報発信事業に心血を注いでおり、その活動は抜きんでいると思う。ドローンまで活用した最先端の情報発信力を高く評価。今後も他ルートを引っ張って欲しい。
5	～伊能忠敬日本図測量開始場所の史実発見と地域資源活用の取組～ 「殿様街道探訪ウォーク」における地域の歴史資源研究活動 【どうなん・追分シーニックバイウェイルート】	16	・北海道では希少なルートの歴史価値の再発見・体験による観光・交流の拡大活動。 ・マスコミ等にも大きく取り上げられ、とても大きな成果を上げている。実行委員会がメインとなり活動しているようだが、シーニックの活動としての貢献をどう考えるかによって評価が変わる。 ・どうなん・追分の特長を最大限、活用した街道の再生につながる事業。継続性と成果の広がりを感じる。 ・28回の開催実績は注目に値。また、その活動成果として、史実を裏付ける日記や書状の発見、伊能忠敬像の建立、歴史資源が浸透・継承する活動等、この活動が存在した故の成果の数々に圧倒された。

活力ある地域づくり賞

活動名称

～伊能忠敬日本図測量開始場所の史実発見と地域資源活用の取組～
「殿様街道探訪ウォーク」における地域の歴史資源研究活動

エントリー部門

活力ある地域づくり

ルート名称

どうなん・追分シーニックバイウエールート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●**活動の目的・目標**：江戸時代松前藩の殿様が通った通称「殿様街道」を実際に歩いた歴史的偉人に関する史実を学びながら古道散策を楽しみ歴史を知ること、改めて「道」について「体験と学び」から考える取組である。また、古道散策では地域の季節の植物や自然に触れ、北海道のみならず日本の歴史や文化に影響を与えた史実研究事象等学び、それらを地域資源、観光資源として磨き、活用することも目的とする。

●**活動内容**：「殿様街道探訪ウォーク」は年2回春5月・秋10月に開催。松前藩時代の古道を散策しながら砲台や茶屋跡等の休憩ポイントで毎回設定される歴史テーマを学び、散策後は地産の千軒十割蕎麦を食し、国の重要無形民俗文化財の松前神楽を觀賞する取組。現在までテーマが「伊能忠敬の道」は8回行われ、**研究活動を通して大日本地図測量が福島町吉岡から始まった史実を裏付ける日記や書状を発見**。このことが広く地域の歴史資源として認知されるよう平成30年4月伊能忠敬像を建立、伊能忠敬北海道測量開始記念公園整備、令和2年10月近隣の小学生を対象に歴史勉強会（2回）開催、「ふくしま歴史物語」を3年かけて編纂し令和3年2月完成等の活動に繋がった。

●**活動期間**：平成20年度～令和2年度（継続中）

②活動の体制

殿様街道探訪ウォーク主催・研究学習の場

福島町千軒岳地域活性化実行委員会

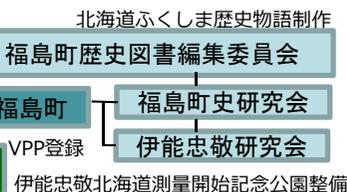
活動団体

共催・協力

参加協力

どうなん・追分SBWR

函館開発建設部



▲「殿様街道探訪ウォーク」学びの取組



▲観光空間となっている伊能忠敬北海道測量開始記念公園と伊能忠敬銅像

③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・古道を熟知している人材と事前にルートの安全性の点検、異物除去。当日はハンターが同行する等毎回準備の連携体制が図られている。
- ・毎回、先進的な視点で歴史テーマ研究を持続的に行ってきた。
- ・「殿様街道探訪ウォーク」はルート設立当初から長期間継続して行っており、リピーターが多く、28回の開催実績を積重ねてきた。

【活動による効果】

- ・大日本地図作成に関わる伊能忠敬記念館の国宝は2300点を超える中地域の歴史資源研究活動から地図測量が福島町吉岡から始まった史実の裏付けを大発見。地域資源・観光資源として認知向上。
- ・探訪ウォーク参加者の意見をきっかけに史実を実証化する銅像建立公園整備をし令和2年ビューポイントパーキング登録。一般国道228号沿線の観光空間として地域交流人口を高めている。
- ・地域歴史書「ふくしま歴史物語」取り纏め等子供や地域に歴史資源が浸透・継承する活動に繋がっている。

「殿様街道探訪ウォーク」参加応募チラシに学習歴史テーマ



▲ふくしま歴史物語表紙と測量が福島町吉岡から始まったことを記載している日記と書状（P6掲載）



▲伊能忠敬銅像の前で松前小学校の生徒に歴史勉強会を開催

部門賞③ 魅力ある観光空間づくり部門候補〔エントリー 5件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	道北シーニック連携フォトコンテスト開催及びフォトブックの作成 【大雪・富良野ルート／宗谷シーニックバイウェイ／萌える天北オロロンルート／天塩川シーニックバイウェイ】	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ルートの連携による地域価値の発見への視点を評価。 ・フォトコンテストの結果を地域の魅力発信にうまくつなげている。 ・新たな発想によるルート間連携の取り組み。具体的で、導入の壁も低く横展開も可能な新たなモデルとなっている。
2	きた北海道エコ・モビリティの推進地域サポートライダーライドの実施 【天塩川シーニックバイウェイ／宗谷シーニックバイウェイ】	10	<ul style="list-style-type: none"> ・エコロジカルな視点からの地域価値の創造的発見と観光価値を伝える人材の育成。 ・ガイド育成に向けた着実な取り組みがなされている。 ・サイクルツーリズム地域ガイドの育成という新しく、重要、意義の大きい取り組み。層が分厚くなり、活動の場が広がることを期待したい。 ・サポートライダーという新しい視点での、サイクリングイベントが定着してきた点を評価。コロナ後の成果が楽しみ。
3	様々な機関と連携したサイクルツーリズムの試行と支援 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】	11	<ul style="list-style-type: none"> ・ルートの新しい価値の発見と共有化への視点と活動。 ・インフラサイクルツーリズムは興味深い取り組みである。 ・多数の地域活動団体の連携が評価できる。 ・全国でサイクルツーリズムを導入したいルートにとって、非常に参考になる取組だと思う。インフラ・サイクルツーリズムとして商品化して、全国のルートに売り込みをかけることも可能なのでは。商品化は「もの」だけではなく、このような取組の「方法論」も可能。
4	オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト 【萌える天北オロロンルート】	15	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なモビリティの重層による新しいルート価値発見へのチャレンジ活動。 ・サイクルツーリズムに向けた取り組みが多い中、他ルートへの貢献も含めて、総合的に充実した取組みと思われる。 ・道路パトロールカーの「動くサイクルステーション化」は、釧路ルートでも実施されているように、横展開が可能な良いアイデア。道の駅、宿泊施設、バス事業者・旅行会社との連携も今後が期待される。 ・「動くサイクルステーション」などアイデアに富んだ発想と、それを具現化していく力は他に類をみない。今後も先進性をもった活動の展開に期待。
5	～南北海道・海外・青森との連携とコースの造成～ どうなんサイクルツーリズム推進事業 【どうなん・追分シーニックバイウェイルート】	7	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな連携も意識した長大ルートの新しい価値の発見・共創への姿勢。 ・自転車搭載バス等充実した取り組みがなされている。 ・他地域との連携を評価。さらに進めて、自立できるところまで期待したい。

魅力ある観光空間づくり賞

活動名称 オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト

エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称 萌える天北オロロンルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

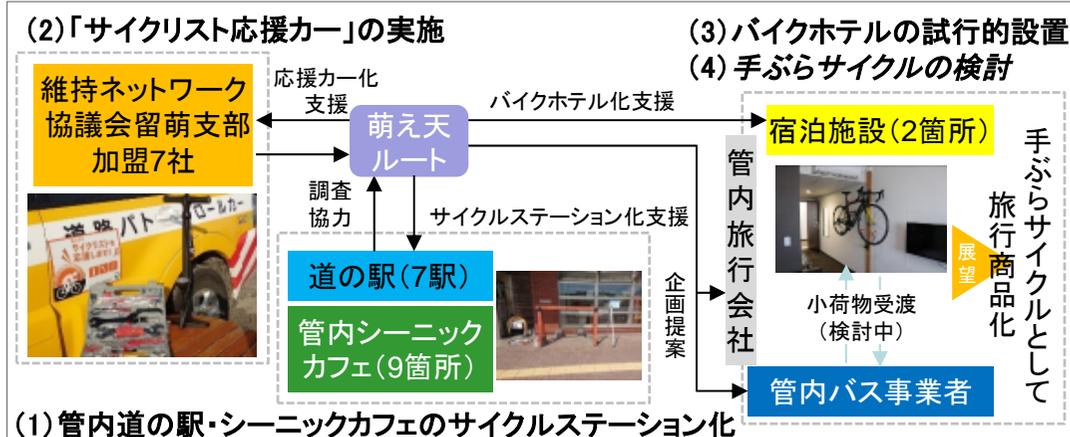
●活動の目的・目標：

- ・「オロロンライン」はサイクリストにとっても全国的知名度のある区間だが、各休憩施設が点在している上級者向け区間。
- ・ビギナー層やライト層も視野に、管内の事業者・団体と連携しサイクリストの受入環境整備を展開するプロジェクト。
- ・「オロロンラインに訪れたサイクリストを応援する」ことを目的とし、来訪者の増加・観光消費の促進・地域振興を目標。

- ### ●活動内容：
- (1)管内道の駅・シーニックカフェのサイクルステーション化、(2)「サイクリスト応援カー」の実施、
(3)バイクホテルの試行的設置、(4)手ぶらサイクルの検討 ※斜体項目は企画検討段階

- ### ●活動期間：
- 令和元年度～令和2年度 ※継続実施中

②活動の体制

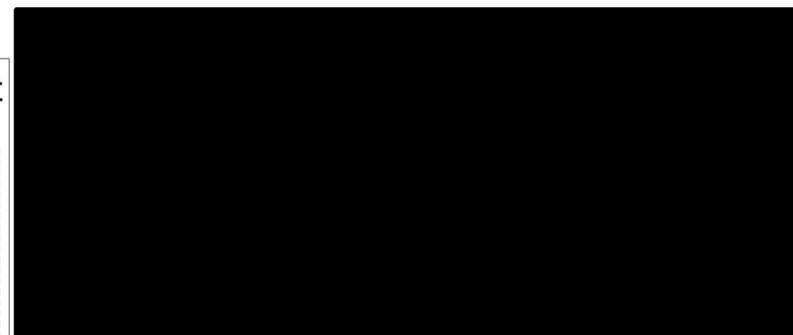


③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- (1)管内道の駅・シーニックカフェのサイクルステーション化
- ・サイクルラックの設置先の関係者とワークショップ形式でラックを製作することで、サイクリストの受入環境整備を共に作っていく関係性を体験を通して構築。
- (2)「サイクリスト応援カー」の実施
- ・区間を頻繁に往来する道路パトロールカーの強みを活かすことで、万が一のトラブルに対応できる「動くサイクルステーション」を管内一円で実現
 - ・社会貢献活動の一環として協力いただくために一社ずつ丁寧に説明。

※各活動内容との関係も記載



サイクルラック製作ワークショップ（留萌北部・中部・南部で3回実施）



サイクルラックにはロゴを焼きゴテで刻印し、皆で完成を喜んだ。



本プロジェクトで用いるロゴ
(日本海の夕陽と風車をモチーフ)

【活動による効果】

- 受入環境整備や地域モチベーションの向上効果
- ・サイクリストの受入環境を管内一円で楽しみながら底上げ。
- ・既存の関係団体との協力関係が強化された。
- ・これまでサイクリストに関心のなかった事業者や団体においても、サイクリストへの理解度が体感を通して高まった。
- 他ルートへの波及効果
- ・釧路(R2年度～)や十勝(R3年度予定)でも応援カー稼働

▼活動団体賞

〔エントリー17件〕

～景観阻害物を撤去して再利用！～

景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト

(支笏洞爺二セコルート)

▼部門賞

①美しい景観づくり賞

〔エントリー3件〕

～景観阻害物を撤去して再利用！～

景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト

(支笏洞爺二セコルート)

②活力ある地域づくり賞

〔エントリー5件〕

～伊能忠敬日本図測量開始場所の史実発見と地域資源活用 of 取組～

「殿様街道探訪ウォーク」における地域の歴史資源研究活動

(どうなん・追分シーニックバイウェイルート)

③魅力ある観光空間づくり賞

〔エントリー5件〕

オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト

(萌える天北オロロンルート)

▼最優秀賞「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」

ルート審査委員会から次のプロジェクトが推薦

○景観障害物を撤去して再利用！～

景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト

■選出理由及び今後の発展に向けての期待

枝打ちによる景観向上のみでなく、枝等をリユースするというユニークな発想であり、シーニックバイウェイならではの活動と言える。カーボンオフセット、売上の活動資金への還元、人材育成など、サステイナブルな地域づくりの取組であるため、高く評価できる。シーニックバイウェイの活動の広がりや持続の象徴ともなっており、今後の継続と共に、他ルートへの横展開を期待したい。

○オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト

■選出理由及び今後の発展に向けての期待

サイクルツーリズムはローカルな価値のみならず、世界に対峙できるもの。その中においても本活動は、総合的に充実しており、モデル的な活動と言える。「動くサイクルステーション」などアイデアが素晴らしく、横展開もしやすい。道の駅、宿泊施設、バス事業者・旅行会社との連携など、今後も先進性を持ったアイデアと活動の展開に期待したい。

※上記2件は特に地方創生の基盤を育てる活動となり得ることから、シーニックバイウェイが次のステップに上がるための可能性を有しており、共に最優秀賞に選出した。



参考資料



ベスト シーニックバイウェイズ プロジェクト2020 応募プロジェクト一覧



ベストプロ2019 最優秀賞
函館・大沼・噴火湾ルート
～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取り組み～
**函館新道「花いっぱい活動」
及び「シーニックdeナイト」**

シーニックバイウェイ北海道推進協議会

ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2020

ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2020 応募一覧



NO	ルート名称	活動名称	エントリー部門	活動年数
1	支笏洞爺ニセコルート	～景観阻害物を撤去して再利用！～ 景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト	①美しい景観づくり	6年 (H27～R02)
2	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置	①美しい景観づくり	16年 (H17～R02)
3	札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート	札幌シーニックバイウェイにおける美しい景観の道づくりプロジェクト	①美しい景観づくり	1年 (R02～R02)
4	空知シーニックバイウェイ-体感未来道-	～かわたび北海道×空知シーニックバイウェイ～ 空知川メインルート 体験テストツアー	①美しい景観づくり	2年 (R01～R02)
5	東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー	②活力ある地域づくり	9年 (H24～R02)
6	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	新型コロナウイルス感染症状況下における道の駅の3密回避を意識した道の駅「摩周温泉」訪問者のオープンスペースへの誘導	②活力ある地域づくり	2年 (R01～R02)
7	函館・大沼・噴火湾ルート	～カーボンオフセットの導入によるCO2削減～「シーニックの森」づくり	②活力ある地域づくり	12年 (H21～R02)
8	十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間	情報発信事業	②活力ある地域づくり	11年 (H22～R02)
9	どうなん・追分シーニックバイウェイルート	～伊能忠敬日本図測量開始場所の史実発見と地域資源活用の取組～ 「殿様街道探訪ウォーク」における地域の歴史資源研究活動	②活力ある地域づくり	13年 (H20～R02)
10	層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックマルシェの開催	②活力ある地域づくり	8年 (H25～R02)
11	大雪・富良野ルート／宗谷シーニックバイウェイ／萌える天北オロロンルート／天塩川シーニックバイウェイ	道北シーニック連携フォトコンテスト開催及びフォトブックの作成	③魅力ある観光空間づくり	6年 (H21～R02)
12	天塩川シーニックバイウェイ／宗谷シーニックバイウェイ	きた北海道エコ・モビリティの推進地域サポートライダーライドの実施	③魅力ある観光空間づくり	1年 (R02～R02)
13	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	様々な機関と連携したサイクルツーリズムの試行と支援	③魅力ある観光空間づくり	2年 (R01～R02)
14	萌える天北オロロンルート	オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト	③魅力ある観光空間づくり	2年 (R01～R02)
15	どうなん・追分シーニックバイウェイルート	～南北海道・海外・青森との連携とコースの造成～ どうなんサイクルツーリズム推進事業	③魅力ある観光空間づくり	4年 (H29～R02)
16	層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ	観光・地域情報発信	③魅力ある観光空間づくり	1年 (R02～R02)
17	知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ	ジモトナビキャンペーン	③魅力ある観光空間づくり	1年 (R02～R02)



① 美しい景観づくり

1. ～景観阻害物を撤去して再利用！～ 景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト

(支笏洞爺ニセコルート)

2. シーニックデッキの設置 (東オホーツクシーニックバイウエイ)

3. 札幌シーニックバイウエイにおける 美しい景観の道づくりプロジェクト

(札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート)

4. ～かわたび北海道×空知シーニックバイウエイ～ 空知川メインルート 体験テストツアー

(空知シーニックバイウエイ-体感未来道-)

活動名称

～景観阻害物を撤去して再利用！～
景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト

エントリー部門

美しい景観づくり

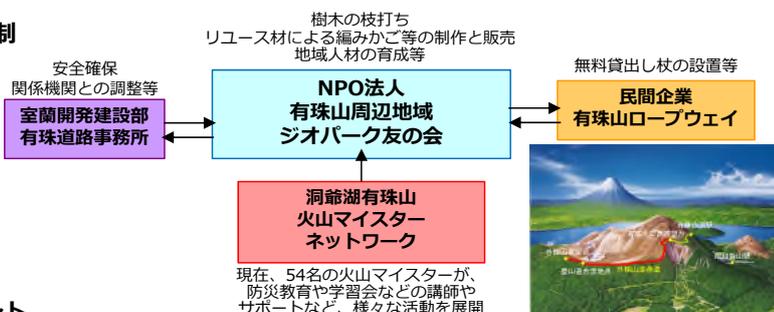
ルート名称

支笏洞爺ニセコルート

①活動概要 (目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：
シーニックバイウエイによる沿道の景観清掃活動の中で、目に付いた道路の景観を阻害する胡桃の木等を撤去する活動を兼ね、リユース材の販売や遊歩道に杖や案内サイン等の設置。
- 活動内容：①案内標識等の視認性を妨げる**樹木の枝打ち等**による**道路景観の向上**
②枝打ちした胡桃の枝等を杖に加工：**登山道での無料貸出し杖設置**
③ブドウヅル等を活用した**加工品の制作・販売**(地域バザール等)
④会員を対象とした籠編み講習会等を通じた**地域の人材育成**
- 活動期間：平成27年度～令和2年度 **※継続展開中**
・実施場所：洞爺湖周辺の道路沿道 (国道・道道等)
※道路脇などに自生し看板の眺望を妨げているクルミ・ヤマブドウ等の枝について、道路管理者や各種関係機関との事前・事後の調整をした上で実施

②活動の体制



STEP1 眺望確保に向けた雑木伐採



STEP2 伐採木のリユース (編みかごの販売や杖の提供)



(1) ジオパーク友の会手工芸部会
によるリユース作品の販売
新聞掲載記事 (→)

③PRポイント

- 【総意工夫した点や苦勞した点】
- ・地域資源 (人・もの等) の**リユース・リサイクル**および**高付加価値化**
 - ・加工品の**売上げ**は、エリア内の**地域活動に還元**するなど、**活動の自立に繋がっている**
 - ・女性メンバー等、幅広く多くの方々に**地域活動に参加してもらう気運が醸成**されている
 - ・道路沿道での活動を伴うため、**道路管理者・地域・民間の密な連携体制の構築**
 - ・樹皮を活用できる枝打ち時期が**短期間に限られているため**、伐採期間に限りがある
- 【活動による効果】
- ・有珠山を訪れる国内外の観光客に対する**サービス提供に対する高い評価**【**外向き**の効果】
 - ・地域資源の利活用による**資源や活動資金の循環**および**地域人材の活性化**【**内向き**の効果】

活動名称 シーニックデッキの設置 **エントリー部門** 美しい景観づくり

ルート名称 東オホーツクシーニックバイウェイ

①活動概要

- 活動の目的・目標：

景観の良い駐車スペースのあるポイントに、シーニックデッキを設置し旅行者などがゆっくりと景色を眺め休憩する事により、東オホーツク地域全体の景観PRをはじめ地域との交流を促進します。また、農産物等の特産品販売等、コミュニティビジネスの創出の可能性も高め、更に道路利用者のオアシスとして交通安全に寄与させます。
- 活動内容：

常設されているウトロポケットパーク、(斜里)の他、あばしりフロックス公園、メルヘンの丘(女満別)、季風クラブ(ウトロ)、コスモスロード(上斜里)、コミット(清里)、斜里岳山小屋清岳荘(清里)、小清水リリーパークに置いて地域交流、休憩、良好景観鑑賞用のウッドデッキを春～秋にかけて設置しています。また、シーニックデッキの周知徹底のため、通常設置している数カ所から人の多く集まる箇所にデッキを集約し、『シーニック・マルシェ』を開催しています。
- 活動期間：

平成17年度～(マルシェは上斜里コスモスロードでの試行を含め平成19年度～)

②活動の体制

- 活動団体、人数、体制図等

【デッキ設置・撤去】網走市観光協会、小清水町観光協会、東藻琴観光協会、清里町商工会、きよさと観光協会、上斜里フラワーロード推進協議会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会、知床斜里町観光協会

【マルシェ】上記の活動団体の他、ルート内の農商工業者(出店者。10団体/年程度)

③PRポイント

- 創意工夫した点

利用促進のため、マルシェやルートマップ、HPやSNSを活用してルート内外への取り組みと設置場所・時期の周知を行いました。
- 苦勞した点

メンバーも高齢化しているため、マルシェ時のテント等の移動や補修時のデッキの移動が大きな負担となっています。地元建設業関係者やルート担当にも協力頂いていますが、今後マルシェ出店者にもマルシェ時の移動には協力頂く等の対応を行っていただければと考えております。
- 活動による効果

ルート内の新たな景観資源となりました。マルシェの実施により、ルート内でのシーニックの認知度向上、農商工業者の新たな販売機会を創出することができました。
- ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2015受賞(美しい景観づくり賞)からの改善点

近年売上の多いウトロ、パパス(清里)のマルシェを中心にルート内他地域も含めた新たな出店者への呼びかけを強化し、新規出店を行うことができました。それによりマルシェ来訪者が増加し、シーニックデッキやルート内景観の認知度向上、特産品売上向上等の改善がなされました。



シーニックデッキ(大空町メルヘンの丘)



シーニックマルシェ(道の駅ウトロ・シリエトク)

活動名称 札幌シーニックバイウェイにおける美しい景観の道づくりプロジェクト **エントリー部門** 美しい景観づくり

ルート名称 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：

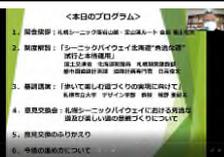
札幌シーニックでは、美しい景観の道づくりについて学び考え、啓発することを目的として、ルート内で景観美化活動に取り組んでいる場所を巡るバスツアーや、『秀逸な道』を紹介するカレンダーの制作などに取り組んできた。R2年度には、『秀逸な道』の制度について学ぶ“秀逸な道の勉強会”を企画・開催した。今年度は、認定された国道230号の秀逸な道の区間や今後登録を検討する国道453号をバスで巡って見学する現地見学会を予定している。
- <“秀逸な道勉強会”の開催概要>
 - 開催日時：令和2年12月3日(木) 14:00～16:30
 - 開催方法：Zoomによるオンライン開催
 - 参加者数：地域8名(講師含む)+関係者8名+オンライン視聴24名
 - 内容：『秀逸な道』の制度について、札幌開発建設部都市圏道路計画課より解説をいただくとともに、景観の専門家である札幌市立大学の椎野教授より、札幌シーニックバイウェイが目指す美しい景観の道づくりについて基調講演を頂き、最後に参加者による意見交換を行った。
 - まとめ
 - ・車から見える景色だけでなく、人が歩きながら見える景観を含めて、札幌シーニックとして美しい景観の道づくりについて考える機会となった
 - ・国道230号の秀逸な道の本格運用に向けて、区間の延伸、KP40の冬期待避所の活用方法、周辺の観光資源について話し合わせ、登録を目指すことで合意(⇒その後、ルートとして正式に登録申請し、シーニックバイウェイ北海道推進協議会より認定(R3.4.19))
 - ・また、国道453号の登録についても今後、検討していくこととなった



ルート内を巡るバスツアー(H30年度)



札幌シーニックカレンダーで「秀逸な道」を紹介(R1年度)



③PRポイント

- 【総意工夫した点】
 - ・当初、対面の勉強会を実施予定であったが、コロナウィルス感染拡大防止のため、オンラインの開催に変更し実施した。札幌シーニックとして初のオンライン会議となったが、無事に開催することができた。
- 【活動による効果】
 - ・ルート内における秀逸な道の制度に対する理解の向上
 - ・美しい景観の道づくりへの共通理念の醸成と景観保全への意識向上



オンラインで開催した秀逸な道勉強会の様子

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：
 - ・空知シーニックバイウェイでは「地域の歴史・営みを感じる空知ingな景観づくり」に取り組んでいます。本活動は「かわたび北海道」と「空知シーニックバイウェイ」が連携し、メインルートのひとつである「空知川」沿いのビューポイントを実際に体験。その背景にある地域の歴史や成り立ちを学び、子どもたちに伝えていくため、空知の景観保全とさらなる地域資源の活用を検討するものです。
- 活動内容：
 - ①空知川沿いのビューポイントの体験：Eボートで専門スタッフと川を下り、自然環境や松浦武四郎が発見したとされる露頭炭(北海道地質百選)を五感で体験。
 - ②景色の背景を学ぶ：赤平炭鉱遺産ガイダンス施設にて、元炭鉱マンガイドより景色の背景(炭鉱遺産)について学ぶ。
 - ③寄り道ビューポイントの発掘：ドライブで寄り道可能なビューポイントとして旧三井芦別鉄道炭山川橋梁(日本遺産「炭鉄港」)、芦別川の名勝「三段滝」のヒーリングスポットを体験。
- 活動期間：令和元年～令和2年度
- 実施場所：赤平市・芦別市・空知川・芦別川・国道452号・道道芦別砂川線



◀当日の配布プログラムで、ビューポイントの位置や概要をわかりやすく整理

②活動の体制

- 企画：空知シーニックバイウェイ事務局
- 共催：NPOまち・川づくりサポートセンター、札幌開発建設部
- 後援：赤平市、一般財団法人石狩川振興財団、(一社)シーニックバイウェイ支援センター



③PRポイント

- 【総意工夫した点や苦労した点】
 - ・川下りにより五感で景観を堪能できるプログラムとした。
 - ・地域の歴史・営み(炭鉱)を体験者から直接学べるよう工夫した。
 - ・関係者との調整、コロナも含めた安全対策の徹底。
- 【活動による効果】
 - ・景観・地域資源(ビューポイント箇所)の理解が深まった。
 - ・関係者間のネットワークが構築された。



Step1 ビューポイントを五感で体験

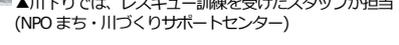
▲空知川沿いビューポイント発掘事務局長 当日の流れと注意事項の説明



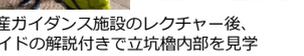
Step2 体験者に学ぶ



▲150年前の姿を今に伝える空知川の露頭炭層



▲川下りでは、レスキュー訓練を受けたスタッフが担当 (NPOまち・川づくりサポートセンター)



▲赤平炭鉱遺産ガイダンス施設のレクチャー後、元炭鉱マンガイドの解説付きで立坑内部を見学

Step3 地元の寄り道を発掘!!



▲旧三井芦別鉄道炭山川橋梁(日本遺産「炭鉄港」) 地元メンバーによる解説



▲芦別川の名勝「三段滝」・国道452号の現地で課題等の意見交換

② 活力ある地域づくり



1. ルート内道の駅スタンプラリー (東オホーツクシーニックバイウェイ)
2. 新型コロナウイルス感染症状況下における道の駅の3密回避を意識した道の駅「摩周温泉」訪問者のオープンスペースへの誘導 (釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)
3. ～カーボンオフセットの導入によるCO2削減～「シーニックの森」づくり (函館・大沼・噴火湾ルート)
4. 情報発信事業 (十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間)
5. ～伊能忠敬日本図測量開始場所の史実発見と地域資源活用の取組～ 「殿様街道探訪ウォーク」における地域の歴史資源研究活動 (どうなん・追分シーニックバイウェイルート)
6. シーニックマルシェの開催 (層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ)

活動名称 ルート内道の駅スタンプラリー エントリー部門 活力ある地域づくり

ルート名称 東オホーツクシーニックバイウエイ

①活動概要
ルート内の回遊性向上、ルートの認知度向上の目的から、ルート内7道の駅を対象としたスタンプラリーを4月15日～11月3日の期間で実施しました。景品(完全制覇賞:8道の駅特産品詰め合わせ×2名、各駅賞:8道の駅それぞれの特産品×16名、コカ・コーラ賞×6名、シーニック賞×2名)

②活動の体制
●活動団体、人数、体制図等
【主催】:東オホーツクシーニックバイウエイ連携会議
【後援】:網走開発建設部、北海道コカコーラボトリング(株)
【協力】:LIA FMあばしり、ルート内8道の駅

③PRポイント
●創意工夫した点
包括連携企業であるコカ・コーラ(株)と連携し、景品等の一部を確保できました。

●苦勞した点
予算的制約等から、スタンプラリー帳にはシーニックの情報はルート名、ロゴ、簡易地図の記載が限界でした。今後はルートの認知度向上のため、ルートで推挙している観光資源、秀逸な道情報等も加えていきたいと考えています。

●活動による効果
スタンプ帳12,000を作成・配布し、当選者枠が26人でありましたが1,100人の応募をいただき、アンケート(1,100人)結果からは今まで知らなかった地域情報を得ることができた、「集めるのに丁度よい数」等の好評の感触を得ることが出来、ルート内回遊性の向上に寄与できたと考えています。



表面



裏面

活動名称 新型コロナウイルス感染症状況下における道の駅の3密回避を意識した道の駅「摩周温泉」訪問者のオープンスペースへの誘導 エントリー部門 活力ある地域づくり

ルート名称 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)
●活動の背景と目的・目標:
・訪問者の行動が道の駅内で完結⇒周辺施設(水郷公園など)への誘導推進
・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行⇒道の駅訪問者の3密回避
・SBWの清掃活動活発化と管理者による温度差⇒垣根を超えた活動の必要性
●活動内容:
①道の駅周辺の散策マップを作成 ※「沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業」を活用
②道の駅周辺の散策案内看板を道の駅に設置
③道の駅館内のシーニックバイウエイ情報提供スペースでの重点的な情報発信
④道路駐車帯の清掃活動時に道の駅周辺(河川敷地、道の駅など)を一齐清掃
●活動期間:令和元年度～令和2年度



道の駅「摩周温泉」と周辺施設(水郷公園、なんだろろう橋)の位置



②散策案内看板の設置(道の駅)

③PRポイント
●道の駅と隣接施設の連携により自然の中で安心して休息できるスペースを提供⇒なんだろろう橋を渡って水郷公園で休憩する道の駅訪問者が増加⇒なんだろろう橋に歩行者カウンターを設置し計測(今後の活動評価にも活用)
●連携した関係機関それぞれにもメリットがあるようにPR活動を実施
・弟子屈町:散策マップや案内看板で水郷公園やなんだろろう橋をPR⇒利用者増加
・道の駅「摩周温泉」:3密を避けゆっくり休める空間提供⇒道の駅の魅力アップ
・かわたびほっかいどう:散策マップで釧路川の魅力や活動をPR⇒認知度向上
●釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイを中心に関係機関(弟子屈町、環境省、林野庁、道路管理者、河川管理者)の垣根を超えた一齐清掃が実現⇒ルート活動参加者の広がりとともに、各機関一体となって地域資源を磨き上げ
●令和3年度は、賑わいを失っている弟子屈市街部への誘導も検討開始



・月平均4000人がなんだろろう橋を利用(R2年8月～11月)
・地域からも水郷公園に賑わいが生まれたと高評価

なんだろろう橋の利用者数の計測結果

④垣根を超えた一齐清掃活動

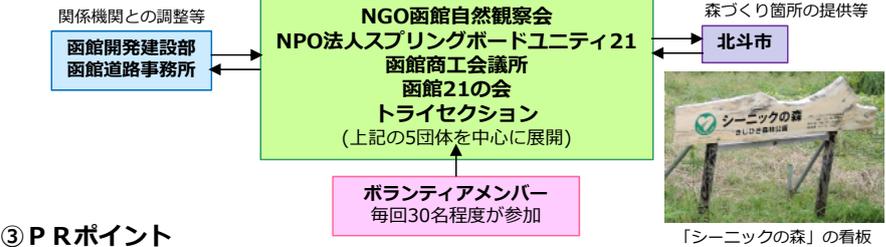
①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：
 - ・地域活動団体と関係行政機関が連携し、カーボンオフセットの考えを取り入れたCO2削減を主目的とし、国内外からの来訪者との交流人口拡大による地域活性化を図ること。
 - ・また、森林再生による各森林の自然環境を守り、SDGsに繋げることも目的にした取組。
- 活動内容：
 - ①ブナやヤマモミジ等の植樹(平成21年度)
 - ②定期的な森の維持管理活動(毎年8月~10月頃 ※年1~2回程度)
 - ③森の下草刈り(ススキ刈り等) (" ")
- ※現在は、約150本の苗木が活着し「シーニックの森」が着実に育まれている。
- 活動期間：平成21年度(2009)~令和2年度(2020) ※継続展開中
- 実施場所：北斗市村山173-1(きじひき森林公園内)



(↑)「広報ほくと」での参加者募集記事
(↑)「きじひき森林公園」の位置図

②活動の体制



「シーニックの森」の看板

③PRポイント

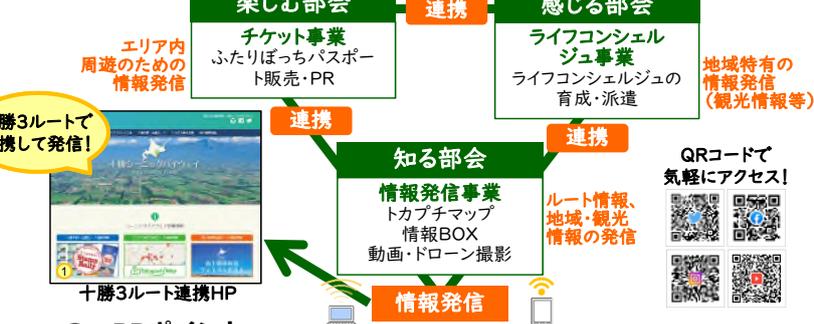
- 【総意工夫した点や苦労した点】
 - ・北斗市から「シーニックの森」づくり箇所を提供いただいている。
 - ・カーボンオフセット型の植樹受入れ等、環境配慮によるCO2削減に貢献している。
 - ・開始当初は、既存イベントである「きじひき高原祭り」と同日開催とすることで参加者が楽しく活動に参加しやすいメニュー・スケジュールに配慮した。
 - ・毎年実施するススキ刈り活動は、広報誌等を活用して参加者を募集し、毎回30名程度のボランティアの方々に参加いただいている。
- 【活動による効果】
 - ・平成21年度(2009年)、「シーニックの森」に認定【認定番号0004】され、シーニックバイウェイ支援センターの環境保全活動に貢献。
 - ・2009年の苗木の植樹から12年が経過し、3~5mの中高木へと成長し森づくりに寄与。



1. 活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 【活動の目的・目標】
 - 地域の魅力ある施設や風景、イベントや、十勝地域等の情報発信を行うことで、交流人口および長期滞在人口の増加を促し、地域活性化しながら移住・定住人口増を目的とした活動を継続中。
 - 当ルートの3部会で連携し、知る部会を中心に情報発信活動を実施。
- 【活動内容、活動期間】
 - ①ホームページ(HP)・SNS：ルート・観光情報の発信
 - HP (H22~):ルート活動や地域情報等、基本的な情報を発信
 - Facebook (H28~):イベント、施設、観光情報等をより広く発信
 - Twitter (H28~):FBやHPの情報をいち早く発信
 - Instagram (H28~):美しい画像で魅力発信
 - ②動画発信 (R1~):ドローン撮影を含む、youtube動画の配信
 - ③動画放映 (R2~):おびひろ駅バスターミナル内サイネージ動画放送

2. 活動の体制



十勝3ルート連携HP

3. PRポイント

- 【創意工夫した点や苦労した点】
 - ・時代に合わせて様々な媒体を使い情報発信の場を広げ、幅広い年代に情報が伝わるように工夫した。
 - ・日常的に動画サイトを見ない人や観光者へ向けて、帯広駅前バスターミナル内サイネージで動画を放映。ネット以外での情報発信も実施。
 - ・長期的な活動報告や事業活動はHP、動画投稿やマップ完成の報告などはリアルタイムでSNSへ。それぞれの利点を生かした情報発信を実施。
 - ・SNSは最もアクセスされる時間帯を分析し、記事を投稿。
 - ・テイクアウト情報、ドローンでの広大な映像で旅行気分を味わえる動画など、コロナ禍だからこそ役立つ情報を発信。
- 【活動による効果】
 - ・SNSのフォロワー数、HPアクセス数は年々増加(SNSは40~50代、HPは20~30代からのアクセスが多い)しており、情報発信として定着。
 - ・HP・SNSの投稿からトカプチ雄大空間が認知され会員数(ルートメンバー)が増加。地域の活性化と活動の継続性が見込める。
- 【課題】
 - ・情報発信コンテンツとしての認知向上のため、Youtube再生数とSNSアクセス数の増加が必要。YouTubeのサムネイル表示の工夫や、21の投稿頻度を上げる、イベント等での周知・PRを行っていく予定。

- ④情報BOX (H24~) : エリア内17施設に情報BOX(パンフレット棚)を設置。当ルート会員施設や観光情報等パンフレットを配送・設置することで会員相互の情報発信と誘客を図る。
- ⑤ルートマップ (H23~) : 毎年テーマを変えルート内の地域情報を掲載したマップを情報BOXや観光施設等に設置。イベント等でも配布。
- ⑥ライフコンシェル (H24~) : 観光ボランティアによる観光案内を通じた地域特有の情報発信(文化・歴史・暮らしなど)
- ⑦チケット事業 (H22~) : ふたりぼっちパスポートを利用した、エリア内周遊を促す情報発信(施設紹介で地域活性)



HP・SNS等で発信!
多様な媒体で発信!



QRコードで気軽にアクセス!

活動名称 「殿様街道探訪ウォーク」における地域の歴史資源研究活動

エントリー部門 活力ある地域づくり

ルート名称 どうなん・追分シーニックバイウェイルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：江戸時代松前藩の殿様が通った通称「殿様街道」を実際に歩いた歴史的偉人に関する史実を学びながら古道散策を楽しみ歴史を知ること、改めて「道」について“体験と学び”から考える取組である。また、古道散策では地域の季節の植物や自然に触れ、北海道のみならず日本の歴史や文化に影響を与えた史実研究事象等学び、それらを地域資源、観光資源として磨き、活用することも目的とする。

●活動内容：「殿様街道探訪ウォーク」は年2回春5月・秋10月に開催。松前藩時代の古道を散策しながら砲台や茶屋跡等の休憩ポイントで毎回設定される歴史テーマを学び、散策後は地産の千軒十割蕎麦を食し、国の重要無形民俗文化財の松前神楽を観賞する取組。現在までテーマが「伊能忠敬の道」は8回行われ、**研究活動を通して大日本地図測量が福島町吉岡から始まった史実を裏付ける日記や書状を発見**。このことが広く地域の歴史資源として認知されるよう平成30年4月伊能忠敬像を建立、伊能忠敬北海道測量開始記念公園整備、令和2年10月近隣の小学生を対象に歴史勉強会（2回）開催、「ふくしま歴史物語」を3年かけて編纂し令和3年2月完成等の活動に繋がった。

●活動期間：平成20年度～令和2年度（継続中）

②活動の体制



▲「殿様街道探訪ウォーク」学びの取組
「殿様街道探訪ウォーク」参加応募チラシに学習歴史テーマ



▲観光空間となっている伊能忠敬北海道測量開始記念公園と伊能忠敬銅像



▲伊能忠敬銅像の前で松前小学校の生徒に歴史勉強会を開催

③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

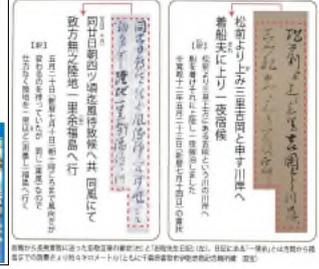
- ・古道を熟知している人材と事前にルートの安全性の点検、異物除去当日はハンターが同行する等毎回準備の連携体制が図られている。
- ・毎回、先進的な視点で歴史テーマ研究を持続的に行ってきた。
- ・「殿様街道探訪ウォーク」はルート設立当初から長期間継続して行っており、リピーターが多く、28回の開催実績を積重ねてきた。

【活動による効果】

- ・大日本地図作成に関わる伊能忠敬記念館の国宝は2300点を超える中地域の歴史資源研究活動から地図測量が福島町吉岡から始まった史実の裏付けを大発見。地域資源・観光資源として認知向上。
- ・探訪ウォーク参加者の意見をきっかけに史実を実証化する銅像建立公園整備をし令和2年ビューポイントパーキング登録。一般国道228号沿線の観光空間として地域交流人口を高めている。
- ・地域歴史書「ふくしま歴史物語」取り纏め等子供や地域に歴史資源が浸透・継承する活動に繋がっている。



▲ふくしま歴史物語表紙と測量が福島町吉岡から始まったことを記載している日記と書状（P6掲載）



▲ふくしま歴史物語表紙と測量が福島町吉岡から始まったことを記載している日記と書状（P6掲載）

活動名称 シーニックマルシェの開催

エントリー部門 活力ある地域づくり

ルート名称 層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ

①活動概要

●活動の目的・目標：景観の良い箇所、もしくはルート内で集客の多いイベント等でルート内の農水産物等の特産品販売及びルート活動のPR等を行うことで、域内外の観光客の域内周遊を促進し、シーニック活動や道路の重要性等の理解を促します。

●活動内容：上川町北の森ガーデン、遠軽町太陽の丘公園、滝上町のイベント、札幌地下歩行空間・札幌ビッセ等において、ルート内の農水産物等の特産品販売及びルート活動のPRパネル展示等による『シーニック・マルシェ』を開催しています。

●活動期間：平成25年度～



シーニックマルシェ（遠軽町太陽の丘公園）

②活動の体制

●企画・運営：層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ、オホーツク周遊200キロ推進協議会

③PRポイント

- 創意工夫した点：利用促進のため、チラシやHPを活用してルート内外へ、取り組みと設置場所・時期の周知を行ないました。
- 苦労した点：実施時期は他のイベントが多く、出店者や運営側も幅広くかかわっている場合が多いため、出店者やスタッフの確保に苦慮しました。
- 活動による効果：ルート内の中心的な活動の一つとなりました。マルシェの実施により、ルート内外でのシーニックの認知度向上、農水商工業者の新たな販売機会を創出することができました。



シーニックマルシェ（オータムキャンペーン）
（地元観光案内人がリアルタイムで地域の観光スポットを紹介する「バーチャルツアー」、地域特産品販売・地域PRパネル展示 札幌ビッセ）



③ 魅力ある観光空間づくり

1. 道北シーニック連携フォトコンテスト開催及びフォトブックの作成
(大雪・富良野ルート／宗谷シーニックバイウェイ／萌える天北オロロンルート／天塩川シーニックバイウェイ)
2. きた北海道エコ・モビリティの推進地域サポートライダーライドの実施
(天塩川シーニックバイウェイ／宗谷シーニックバイウェイ)
3. 様々な機関と連携したサイクルツーリズムの試行と支援
(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)
4. オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト
(萌える天北オロロンルート)
5. ～南北海道・海外・青森との連携とコースの造成～
どうなんサイクルツーリズム推進事業(どうなん・追分シーニックバイウェイルート)
6. 観光・地域情報発信(層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ)
7. ジモトナビキャンペーン(知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ)

活動名称	道北シーニック連携フォトコンテスト開催及びフォトブックの作成	エントリー部門	魅力ある観光空間づくり
ルート名称	大雪・富良野ルート／宗谷シーニックバイウェイ／萌える天北オロロンルート／天塩川シーニックバイウェイ		

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：

美しい風景を通し道北のシーニックバイウェイ4ルートの新たな魅力の発掘するフォトコンテストを継続開催するとともに、過去の入選作品を活用し、ルートの周遊観光を促進するフォトブックを作成する。
- 活動内容：

新たな取り組みとして過年度の入選作品を活用し、道北シーニックバイウェイの周遊観光を推進するために、美しい風景をめぐる「フォトブック」を作成した。

令和2年度もフォトコンテストは継続的に開催した。令和2年度はコロナ禍のため、応募条件を緩和し「過去に撮影した作品も可」とした。そのため、応募総数はこれまでで最も多い282作品(うち学生部門8作品)となった。
- 活動期間：平成27年度～令和2年度(令和3年度も継続予定)

②活動の体制

道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会			
実行委員長：大雪・富良野ルート 代表 加藤 祐一			
事務局：大雪・富良野ルート 事務局 荒田 陽史			
専門家：大雪・富良野ルート 幹事 菊地 晴夫			
構成員			
各ルートからルート代表及びフォトコンテスト担当者2名が実行委員会に参加			
大雪・富良野ルート	宗谷シーニックバイウェイ	萌える天北オロロンルート	天塩川シーニックバイウェイ

- 旭川開発建設部
- 留萌開発建設部
- 稚内開発建設部
- ルート担当(dec)

③PRポイント

- フォトコンテストの応募条件として、2ルート以上で撮影した作品(2作品以上)で応募可能とした。コロナ禍のため応募できる写真は、「過去に撮影した写真も可」とした。
- 前前回の開催から「学生部門」を設け、若者から見たルートの風景等を収集している。
- 実行委員会を定期的に開催し、連携の強化、お互いにルート資源を共有している。
- 【フォトブックのPRポイント】
- 美しい風景に出会える観光をPRするために、入選作品からルートおススメの写真を掲載し、撮影できるポイントのマップコードを掲載した。また撮影のマナーや立ち寄り先も掲載した。
- ウェブアンケートを行い旅行者のニーズを把握した。



※※令和2年度 グランプリ ※※※
【星空のステージ】
撮影者：鈴木 智博
撮影地：大雪・富良野ルート

POINT①
親しみやすい表紙

POINT②
文量を最小限に

POINT③
マップコードで撮影地まで誘導

POINT④
立ち寄り先も紹介

写真で巡る 北海道の旅
「きた北海道編」

【アンケート結果】
約8割の方が写真が掲載された場所への来訪意図があると回答した。

活動名称 **きた北海道エコ・モビリティの推進 地域サポートライダーライドの実施** エントリー部門 **魅力ある観光空間づくり**

ルート名称 **天塩川シーニックバイウエイ／宗谷シーニックバイウエイ**

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

●目的・目標／体験型観光と個人旅行のニーズを含め、一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆にとり、地域にとってプラスとして、地域資源に触れ・遊び、移動そのものが観光となる新しい旅のスタイル『きた北海道エコ・モビリティ』を広くで連携・推進
⇒その一つの形として、自転車を軸としたイベントを“地域ブランド”として定着させ、地域への経済効果・周遊性向上へ繋げる

●活動内容／**地域ガイド発掘・育成のためのTEPPEN-RIDEサポートライダーライドの実施**

自然環境豊かな道北の魅力伝えるべく、広域サイクリングイベント「TEPPEN-RIDE」を継続的に実施(2019年までに全4回開催)。年々参加者も増えており、リピーターによる期待も高まる中、**地域の良さを伝えながら、安全に案内できるサポートガイド**が、より必要となってきた。また、**新型コロナウイルスの感染拡大防止対策**を含め、**どのような状況下でも実施できる手法の検討**も、今後の重要な視点である。これらを踏まえ、**地域内のサポートガイド**となりうる**潜在的な人材の発掘・育成、サポート体制の構築**を目指し、イベント当日をイメージしたコース実走による路面や交通状況、ビューポイントや休憩箇所等の確認のためのサポートガイドライドを実施した。

- ＜サポートライダー募集対象＞
 - ★1日平均100km以上走行可能な方
 - ★自分でパンク修理など簡単なメンテナンスが可能な方
 - ★人とのふれあい(会話)などに興味がある(好きな)方
- 活動期間／＜南部エリア＞2020年9月21日(月祝)・22日(火祝)
＜北部エリア＞2020年10月2日(金)・3日(土)
- 活動範囲／きた北海道エリア(天塩川SBW、宗谷SBW、その他近隣市町村)



③PRポイント

- 【総意工夫した点】
 - ・従来からのTEPPEN-RIDEサポートライダーが講師となり、概要説明・コース案内し、**彼らのガイドスキル向上**に繋がった。
 - ・参加者・ガイドの両方の目線でコースを確認し、休憩ポイント毎に参加者へヒアリングを実施した。(気を付けたほうがいい留意箇所、休憩箇所やビューポイント、サポート体制など)
 - ・withコロナにおける対策に考慮し、実施した。(マスク着用の走行、新たな食事手法・メニューの検証、ディスタンスの方法等)
- 【活動による効果】
 - ・新たなサポートライダーとして、南部で5名・北部で5名の参加があり、**新たな仲間が増えた**。
 - ・両シーニック外の旭川や豊富などのガイドも増え、**コース全体でのサポート体制が強化された**。
 - ・参加者からの新たな視点(意見)や情報交換ができ、よりよい実施にむけた**内容の見直し・検討**に繋がった。
- 【今後の展開】
 - サポートライダーとして登録し、サイトにてガイド情報を公開する。⇒**顔の見えるガイド(安心感・親近感)**
 - 地域内の他サイクリングイベントへの協力を促進し、**エリア全体でのサポート力(=地域力)の向上**を目指す。
 - 旭川市や比布町、サイクリング協会などを含む「きた北海道サイクルツーリズム連携協議会」との連携強化へ繋げる。
 - 感染症対策に最大限配慮しつつ、次年度には**新サポートライダーと一緒に、第5回TEPPEN-RIDE開催**を目指す。

②活動の体制

実施主体 **きた北海道エコ・モビリティ**
天塩川シーニックバイウエイ(事務局)
宗谷シーニックバイウエイ

【協力・連携】 **常に密に情報共有**
 きた北海道サイクルツーリズム連携協議会／(一社)シーニックバイウエイ支援センター／北海道エコ・モビリティ研究会／北海道開発局 旭川開発建設部・稚内開発建設部／その他(地域活動団体、自治体、企業等)

活動名称 **様々な機関と連携したサイクルツーリズムの試行と支援** エントリー部門 **魅力ある観光空間づくり**

ルート名称 **釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ**

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の背景と目的・目標：
 - ・全国的なサイクルブームの中、ルート内に自転車に精通した人が少なかった
 - ⇒ ①**自転車に精通した団体と連携して自転車の魅力、現状、課題を知る**
 - ⇒ ②**同様に模索中の団体と連携し、サイクルツーリズムの可能性を検討する**
 - ⇒ ③**地域団体と連携し、先進地域(オロロンルート)の活動に学び、実践する**
- 活動内容と活動期間：
 - ①サイクル活動団体と連携し、自転車体験会と自転車道の清掃を実施(R1年度)
 - ②かわたびほっかいどうと連携したインフラ・サイクルツーリズムの試行(R2年度)
 - ③釧路建設業協会と連携し「サイクリスト応援キャンペーン」を実施(R2～継続中)
 - ⇒ 道路巡回車両に空気入れ、自転車用工具セットを搭載し、マグネットで明示

②活動の体制

①自転車体験会と清掃活動 ツアー計画/画像素材等の提供
 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ
 かわたびほっかいどう
 ②インフラ・サイクルツーリズム ツアー計画/アンケート調査
 自転車準備・乗り方指導
 かわたびほっかいどう
 ③サイクリスト応援キャンペーン 実施方法などの情報提供のお願い
 実施方法・マグネット等の情報提供
 実施方法伝達、マグネットデザイン
 釧路建設業協会 サイクリスト支援実施

③PRポイント

①自転車体験会と自転車道の清掃(R1年度)	ロードバイクや電動アシスト自転車など、最新の自転車を楽しみながら自転車道の清掃活動(美しい景観づくり)を行い、 サイクルツーリズムによる観光空間づくりの可能性を認識
②インフラ・サイクルツーリズム試行(R2年度)	道路施設や河川施設の解説も好評で、 新釧路川堤防を活用したインフラ・サイクルツーリズムの評価は高かった アンケート(SBW)、映像撮影(かわたび)など、 分担、連携した試行により、品質の高い成果の取得などメリットを実感
③サイクリスト応援キャンペーン(R2年度)	マグネットで応援を周知することで、工具などの利用がなくても、 地域としてサイクリストを応援していることを明示 できた マグネットのデザインを、萌える天北オロロンルートと揃えることで、 将来的な全道統一マークでの応援も期待 できる

新釧路川横堤(左)と旧岩保木水門(右)で解説を聞く参加者

オロロンルート(左上)とデザインを揃えるように工夫して制作

活動名称 オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト

エントリー部門

魅力ある観光空間づくり賞

ルート名称 萌える天北オロロンルート



本プロジェクトで用いるロゴ (日本海の夕陽と風車をモチーフ)

①活動概要 (目的・目標、具体的な取り組み等)

●活動の目的・目標:

- 「オロロンライン」はサイクリストにとっても全国的知名度のある区間だが、各休憩施設が点在している上級者向け区間。
- ビギナー層やライト層も視野に、管内の事業者・団体と連携しサイクリストの受入環境整備を展開するプロジェクト。
- 「オロロンラインに訪れたサイクリストを応援する」ことを目的とし、来訪者の増加・観光消費の促進・地域振興を目標。

- 活動内容: (1)管内道の駅・シーニックカフェのサイクルステーション化、(2)「サイクリスト応援カー」の実施、(3)バイクホテルの試行的設置、(4)手ぶらサイクルの検討 ※斜体項目は企画検討段階

- 活動期間: 令和元年度～令和2年度 ※継続実施中

②活動の体制

(2)「サイクリスト応援カー」の実施

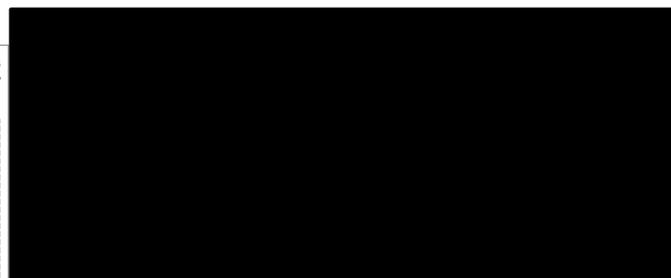


(3)バイクホテルの試行的設置 (4)手ぶらサイクルの検討



(1)管内道の駅・シーニックカフェのサイクルステーション化

※各活動内容との関係も記載



サイクルラック製作ワークショップ (留萌北部・中部・南部で3回実施)



サイクルラックにはロゴを焼きゴテで刻印し、皆で完成を喜んだ。

③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- (1)管内道の駅・シーニックカフェのサイクルステーション化
 - ・サイクルラックの設置先の関係者とワークショップ形式でラックを製作することで、サイクリストの受入環境整備を共に作っていく関係性を体験を通して構築。
- (2)「サイクリスト応援カー」の実施
 - ・区間を頻繁に往来する道路パトロールカーの強みを活かすことで、万が一のトラブルに対応できる「動くサイクルステーション」を管内一円で実現
 - ・社会貢献活動の一環として協力いただくために一社ずつ丁寧に説明。

【活動による効果】

- 受入環境整備や地域モチベーションの向上効果
- サイクリストの受入環境を管内一円で楽しみながら底上げ。
- 既存の関係団体との協力関係が強化された。
- これまでサイクリストに関心のなかった事業者や団体においても、サイクリストへの理解度が体感を通して高まった。
- 他ルートへの波及効果
- 釧路(R2年度～)や十勝(R3年度予定)でも応援カー稼働

活動名称 どうなんサイクルツーリズム推進事業

エントリー部門

魅力ある観光空間づくり

ルート名称 どうなん・追分シーニックバイウェイルート

①活動概要 (目的・目標、具体的な取り組み等)

●活動の目的・目標:

ルート最大の魅力、エリア独特の歴史・文化に触れながらサイクリングを楽しむツーリズムを推進。交通過疎地帯の新たな道路活用・観光・健康・エコロジーに着目した広域のサイクルツーリズムを国内外に向け進め、交流人口の拡大・周遊の向上を通じ、地域経済の活性化を図ることを目的とした取組。

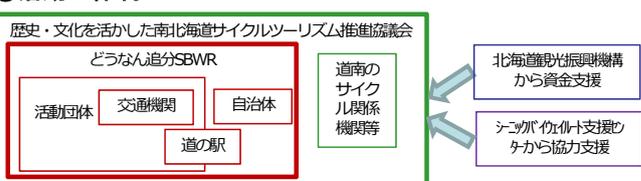
●活動内容: ・2017年 (H29) 試走で推奨基本コースのルート構築。

- ・2018年 (H30) 道の駅等にサイクルラック等整備。南北海道連携モニターツアー開催。
- ・2019年 (R1) 海外(台湾)との連携ツアー開催。エリアサイクルガイド養成講座開催。
- ・2020年 (R2) 「マクロ女子会」とコラボし青森連携ツアーを開催。全国初自転車搭載バスや他の交通アクセスを活用し、商品化されたツアー支援にも協力。

★「チャリ旅みなみ北海道」のHP・SNS発信やコースパンフレット作成等PR継続実施。

●活動期間: 2017年度～2020年度 (継続中)

②活動の体制



▲自転車搭載函館バスの活用



▲道の駅に整備した自転車ラックの活用



▲2020年青森連携ツアー



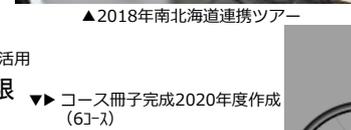
▲2019年台湾招聘海外連携ツアー



▲2018年北海道連携ツアー



▼基本コースパンフレット 日本語・英語版2019年度作成



▼コース冊子完成2020年度作成 (63-7)

③PRポイント

【苦労した点や工夫した点】

- ・2018年は胆振東部地震、2019年は知事選、2020年COVID-19 ▲道の駅に整備した自転車ラックの活用により資金支援の減額によるツアー開催や企画規模等の縮小。サイクルシーズンが限定される中で企画・日程を何度も再考。当初の3年計画の実現に至った。
- ・ツアー開催による民間企業・道路管理者等協力・支援・連携体制が継続的に図られた。

【活動の成果】

- ・地域にサイクルツーリズムが浸透し、理解が深まった。**エリア内の認知度向上。**
- ・商品化されたツアーを含めツアー全てのアンケート結果の満足度が高く、リピートや口コミ等で取組が広がることで**地域経済の活性化等が期待できる。**
- ・アドベンチャートラベルとして注目度が高まり**地域周遊観光として定着してきている。**



活動名称 観光・地域情報発信 エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称 層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ

①活動概要

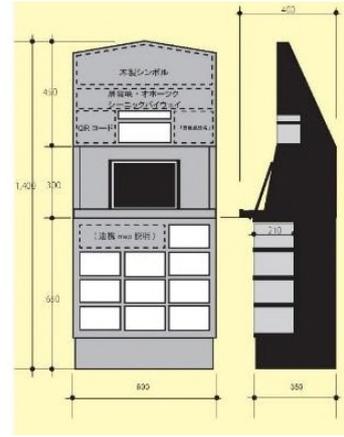
- 活動の目的・目標：
 - ルート内各自治体の魅力を情報拠点、シーニックカフェ、シーニックデッキ、シーニックポイント等から発信し、併せて各自治体連携の拡充・強化を促進します。また、地域産業や木製品等をはじめとする地域資源を活用し、産業・資源が地域の魅力であることも併せて発信します。
- 活動内容：
 - ルート内各自治体において、各自治体の特色を踏まえた情報拠点、シーニックカフェ、シーニックデッキ、シーニックポイントを設定します。併せて木製品等地域産業の強みを活かした情報発信ツールや発信内容としての地域情報マップ（ルート全体版及び各自治体版）の作成について検討を行いました。
- 活動期間：
 - 令和2年度～

②活動の体制

- 企画・運営：層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ

③PRポイント

- 創意工夫した点
 - 情報発信ツールのルートを象徴するデザインモチーフを、ルート内小学校児童から応募のあった絵とルート内デザイナーにより検討しました。
- 苦勞した点
 - 新たな活動としての本取り組み趣旨・フレームをルート内関係者に理解いただくため、複数回の協議を必要としました。
- 活動による効果
 - ルート指定に向けた新たな核となりうる活動として、活動推進目標・連携のフレームをルート内で共有することができました。



地域情報マップ(案)(ルート全体版)

活動名称 ジモトナタビキャンペーン エントリー部門 魅力ある観光空間づくり賞

ルート名称 知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：
 - 地元から出ることなく旅行を楽しむ「withコロナ時代の新しいドライブ観光」の提案により、地域の良さを再発見を促すとともに、地域情報の発信を行う取組。
- 活動内容：
 - ①ジモトナタビ 応援キャンペーン(令和2年8月7日～9月30日)
 - ⇒「ジモトナタビ」インスタグラム・フォトコンテスト
 - 地域の密にならないお気に入りの場所を募集
 - ②ジモトナタビ 食べて応援! キャンペーン(令和3年3月5日～21日)
 - ⇒地元の美食を食べて、撮って、飲食店を応援
- 活動期間：令和2年度～(継続中)

②活動の体制

- 活動団体、人数、体制図等

企画、プレスリリースやSNSを活用した周知、実施結果とりまとめ等

知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイルート運営代表者会議(24団体により構成)

協力等

民間企業

企画、関係機関との調整等

根室振興局

連携

参加

沿線の地域住民、北海道民

③PRポイント

【総意工夫した点や苦勞した点】

- ・コロナ禍の状況で人の活動が停滞する中、人口密度の低い地域特性を活かした「withコロナ時代の新しいドライブ観光」を提案したこと。
- ・SNSを活用したフォトコンテスト等を実施することにより、参加者が情報発信者となり、地域の情報発信が促進されたこと。
- ・アンケートを合わせて実施したことにより、地域の課題を把握できたこと。

【活動による効果】

- ・密を避けつつ、地域や飲食店等の来訪者増加
- ・旅行者目線での地域資源の発掘
- ・キャンペーン期間外でも参加者による情報発信が継続
- ・アンケート結果を踏まえた地域課題の把握により、活動計画を検討

【ジモトナタビキャンペーン概要】

- フォトコンテスト等投稿者には、優秀作品、抽選等でオリジナル・ボトルや地域の特産品をプレゼント!
- アンケート回答者には、オリジナル・エコバックを進呈(先着700名)

○アンケート結果の整理し、課題を踏まえた活動計画の検討に活用

性別	個人	家族	パートナー・恋人	友人・グループ
男性	18.0%	38.0%	22.0%	22.0%
女性	15.0%	31.0%	18.0%	36.0%
男性	18.0%	43.0%	17.0%	22.0%
女性	15.0%	35.0%	19.0%	31.0%
男性	32.7%	32.7%	32.7%	11.9%

○投稿画像は、今後の活動等の素材として活用